



## カンボジアの子どもたちに教科書を

カンボジア便り

2016年9月 No. 58

大澤 龍

### ～目 次～

|             |     |
|-------------|-----|
| カンボジア便り     | 1～2 |
| ボランティアさんの感想 | 3～9 |
| 事務報告        | 10  |

### 今年度の NFEC からの中学進学者

当会が運営費を支援している NFEC(非正規識字学校)から、今年度小学校の課程を修了し中学に進学する生徒は下表の6名です。

全員女の子なのですが、リティさんに問い合わせたところ、特別な意味はなく偶然とのことでした。

また、年齢が12歳から13歳と中学進学適齢年齢になっています。

| 氏名                  | 性別 | 年齢 |
|---------------------|----|----|
| 1. Det Srey Ne      | 女  | 13 |
| 2. Ning Srey khuoch | 女  | 13 |
| 3. Nhorch Naren     | 女  | 13 |
| 4. Pich Chantou     | 女  | 12 |
| 5. Roeun Chanda     | 女  | 13 |
| 6. Ra Srey Noch     | 女  | 12 |



前に出て音読をする子と、それを集中して聴く NFEC の生徒たち

皆様の多くは「当たり前のこと」だと思われるでしょうが、私達がこの地域で支援を始めた頃は学年ごとの年齢にかなりバラツキがありました。

下表は 2007 年のルセイサン小学校のデータです。

| 学年  | 最低年齢 | 最高年齢 |
|-----|------|------|
| 1年生 | 8歳   | 9歳   |
| 2年生 | 7歳   | 13歳  |
| 3年生 | 9歳   | 14歳  |
| 4年生 | 10歳  | 15歳  |
| 5年生 | 10歳  | 17歳  |
| 6年生 | 13歳  | 15歳  |

当時は、それまで経済的状況等の影響で学校に行けなかった子供が、そろそろ学校に行けるようになった時期だったのだと思います。

それがここ 2～3 年は NFEC のような非正規識字学校ですら、中学進学者の年齢が適齢になっています。ポルポト時代が完全に終わって約 20 年、ようやく普通の国になりつつあるようです。

## 今年度の教科書支援と、過去の支援実績

今年度も昨年に続いてクメール語の教科書の支援を行います。

現在各学校の校長先生が必要数を調査しており、9 月初旬には結果が出そろい、10 月の新学期には支給が間に合う予定です。

ところで、当会の不足教科書の補てん支援は、2009 年にルセイサン小学校・ワットハー小学校の二校に対してクメール語・算数・社会・生物の全 4 教科を支給したのが始まりでした。

その結果は素晴らしいもので、下記の成果が上がりました。

- ・生徒の授業中の集中力向上
- ・授業時間の効率向上(板書が減る)
- ・全員が宿題をやって来る。(全員が教科書を持っているので家で宿題が出来る)
- ・授業が分かるので子どもが、学校が好きになる。

この結果、出席率が上がった。

その後周辺の小学校がこれを聞きつけ、支給対象校が一気に広がり、現在に至った経過を下表に示します。

支援累計は 7 年間で 23,873 冊、23,412 ドルになります。

|       |     |                            |                          |
|-------|-----|----------------------------|--------------------------|
| 2009年 | 11月 | 2校に不足教科書支援・1,400冊・1,000ドル  |                          |
| 2010年 | 10月 | 8校に不足教科書支援・5,200冊・4,400ドル  |                          |
| 2012年 | 2月  | 10校に不足教科書支援・3,900冊・3,660ドル | カンボジアが東日本大震災に配慮し、要求が遅れた。 |
|       | 10月 | 11校に不足教科書支援・3,900冊・3,850ドル |                          |
| 2013年 | 10月 | 11校に不足教科書支援・3,873冊・3,569ドル |                          |
| 2014年 | 10月 | 11校に不足教科書支援・4,263冊・4,789ドル |                          |
| 2015年 | 10月 | 11校に不足教科書支援・1,338冊・2,144ドル | 財政状況の悪化でクメール語のみ          |

## ボランティアさんの感想

### 文京区日韓アジア基金ニュースレター発送作業のボランティア

中学生 石黒 翼

6月12日に行われた日韓アジア基金のニュースレター発送作業のボランティアに参加しました。

参加理由としては、部活の大会で敗れ、部活を引退して少し暇になった所で今までやったことがなかったボランティアを行いたいと思ったからです。ボランティアの募集要項で中学生を受け付けているのはあまりなく、できないかもしれないと思っていた所でこのボランティアを何とか見つけることができました。

しかし、見つけられたのはいいとして、活動内容についていけるか不安でした。

“中学生の自分が迷惑をかけないだろうか”



そう思っていました。けれども、実際に行ってみると、スタッフの方々から優しく、やることとそのやり方を教えていただき、作業の場も自由に会話をすることが可能で、働きやすい場所でした。残念ながら参加できませんでしたが、活動後も食事会があり、ボランティアをする人自身も気持ちの良い活動でした。

そして、ボランティアを行ってカンボジアの教育状態も知りました。カンボジアでは教科書が足りない為毎年生徒から教科書を回収して、翌年も同じものをつかっています。

**作業も終盤、クロネコのシール貼りで**

そして、不足している教科書を送

てみるとカンボジアの生徒の学力はみるみる向上したそうです。同世代の子供である私もこのような活動をサポートできたのは良かったと感じました。

けれども、このような教科書搬送は、寄付金やボランティアへ参加する人がいなければ成り立ちません。この活動は自由度が高く、作業も分かりやすく、時間も午前中だけだったので誰でも気持ち良く参加できる内容でした。中・高校生から

リタイアされた方まで幅広い人々が参加をすればこの活動はどんどん大きくなり、カンボジアの教育を促進させることができるはずです。少し時間のある人は活動に参加してみると良いと思いました。

最後に、活動を行わせてくれた運営のみなさん、まことにありがとうございました。今回のボランティアだけでなく、他のボランティアにも参加していきたいと感じました。



この人数で、半日で 230 通を発送しました。

「私に今できる細やかなことが、誰かの、それから私自身の幸せにつながっていく」 ～ニュースレター発送ボランティアに参加して～

社会人 チェヨンジン(韓国)

夏が始まり、暑さを肌で感じ始める時期、6月に社会人になってから初めてとなるボランティアに参加しました。

初めてのことは、いずれも不安や期待で胸がいっぱいになるものですが、大人になった今は、この「初めて」というものは中々日常生活には登場しないもので、久しぶりのこの感覚に、朝からかなり緊張していました。ボランティアを申し込んでから、当日までは日々の仕事で、あまりボランティアのことを考える時間が



なく、ボランティア前日の夜からやっというろんなことが頭の中を巡っていたのです。「事前にメールで当日の作業について案内がきていたが、よく理解できなかった。当日迷惑かけずしっかり力になれるだろうか」、「みな初めて会う人ばかりだが、控えめな自分が他の参加者とうまくコミュニケーションをとれるだろうか」など、いろんな思いが頭の中を巡っていました。しかし、ボランティアが終わり、



チェさんがほめて下さったスタッフによる作業の説明です。

振り返ってみると余計な心配をしたものだと笑う自分がいました。スタッフのみなさんや他の参加者の方はとても気さくでみずから声かけてくださり、短時間であったもののリラックスできたことと、ニュースレター発送という作業は過去長い期間、繰り返し実施してきたため、オペレーションが定着しており、スタッフのみなさんの指示が適切かつ明確で、作業に迷うことはなかったということがその理由です。その結果、効率よく少人数でありながらも予定していた作業量をすべて終わらせることができ、私もその一員として貢献できました。おかげで、初めてのボランティアに参加した自分にとっては、かなりの達成感を得ることができました。

今回のボランティアで印象的だった点を挙げますと、ボランティア作業を始める前にスタッフから初めてボランティアに参加する人のためにボランティアについての概要、当 NPO が活動において心がけている点など、当日の作業に直接つながるものではない話を時間をかけてして下さったことです。NPO というものは、ボランティアの協力が不可欠であり、そのボランティアをいかに活かすことができるかは、組織運営に直接的に関わってきます。その意味では、日韓アジア基金のスタッフのみなさんはボランティア参加者の参加意欲及び今後の活動継続とい

う点において素晴らしいアプローチをとっていらっしゃると感じました。特に、大澤さんのキャラクターは素晴らしいもので、その人柄に惹かれて活動を継続する方も多いのではないのでしょうか。

そのため、ボランティアは初めて、またはこれからボランティア活動を考えている方にとっては、日韓アジア基金のボランティア活動を手始めに、活動を広げていくことはとても良いことと思います。



支援者の方へのコメント書きです。これが一番手間のかかる作業なのですが、チェさんもおっしゃっているように、一連の作業の中で一番やり甲斐を感じられる作業でもあります。

私自身、ボランティアに参加したきっかけとして、今の職業は、法人がお客様であり勤務強度が高く、個々人の能力が重要視される業界に従事していることから、日々の業務において社会に貢献しているという感覚を感じるには努力が必要であることでした。しかし、今回の活動、それからスタッフのみなさんとの出会いを通じてささやかな私の作業や思いが、その結果としてどれくらい社会に貢献

できるか感じる事ができ、私自身にとっても癒しとなりました。 たかがニュースレターの発送作業というそれまでですが、その作業を通じてカンボジアの子供たち、ボランティアに参加している人々にどれほど影響を与えるものであるかは、1回の活動だけであっても十分感じる事ができる、素晴らしい活動だと思います。ニュースレターの活動の中に、過去支援したことがある方へのメッセージを自筆で書く作業がありますが、手書きで書いた私の思いが、レターを受け取った方に届き、支援の再開のきっかけとなること。それがまた、支援を必要とする人へ繋がり、つながれた支援によって社会にとってプラスになる作用をもたらす。つまり、私の活動や思いが、世の中の誰かに幸せを届ける。こんなに肯定的な相互作用をもたらすことは、他にありません。ここまで考えが辿り着くと、このような機会を提供してくださった日韓アジア基金の皆様、それから今まで支援してくださっている支援者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいになります。

今までのように、これからも組織がよい結果を出し続けられるように、微力ながらも貢献できるといいなと思いました。ありがとうございました。ボランティアに参加してくださったみなさま、これから参加を考慮しているみなさまにとって、私の思いが伝わりますと、それ以上に嬉しいことはありません。という気持ちを込めて・・・  
以上

## 「“ビビン（ごちゃ混ぜ）の会” から始めよう。」

社会人 稲垣瑞恵

先日私にとって2回目の「ビビンの会」に参加しました。前回参加した時は初めて参加するのでどのような会なのか、内容もよく把握しないまま参加しましたが、今回はグループリーダーの一員として参加者のサポートをさせていただきました。

私は時々日韓アジア基金でニュースレターやイベントのボランティアとしてお手伝いしていますが、ビビンの会は参加者同士の交流会なのでボランティアの時と雰囲気が全く違います。当日は以前ニュースレター発送のボランティアに参加された方が何人か来られており、ボランティアの時には知らなかったお話や人となりを知ることができてそれも楽しかったです。また、留学生や日本で働いている海外の方もたくさんおられ、私のグループでは中国・オーストラリア・タイ・ミャンマーの方がいて、中には日本人でもワーキングホリデーでオーストラリアに滞在経験のある方もいました。グループディスカッションでは自分たちの国のオススメスポットを紹介しようということになりました。

話し合いの中でもちょっとした文化の違いや食べ物のお話で盛り上がり、非常に楽しかったです。発表方法についても全員でアイデアを出し合って、協力することができたので発表本番でもスムーズに進みました。





### 工夫をこらしたテーマ発表

日頃こんなにいろんな国や職場でも出会うことのない方たちと、身近なテーマで話をするのがないし、それをまた他の人に向けて発表するというのが更に新鮮でした。他のグループの発表も同じ時間・同じ場所で準備したのに、全く違う内容になっていて飽きが来ず、非常に興味深かったです。

発表が終わった後の飲食し

ながらの交流会では真面目な話から他愛も無い話までいろ

んな話をして盛り上がりました。

交流会が終わって、翌日大事な試験があるから帰らなければならない留学生たちも「もっと話がしたい！」という雰囲気です。帰りたくなさそうだったのが非常に印象的でした。

ビビンの会は参加者の方々に楽しんで居心地良く過ごして貰おうというもてなしの気持ちがスタッフ側にも一層あり、それを感じる良い交流会だと思います。

これからも年代・性別・国籍・職業・出身地にこだわらず、いろんな人たちがどんどん交流する場のスタートとして“ごちゃ混ぜ（ビビン）の会”が続いていくといいなと思います。

## 久しぶりの「ビビンの会」に参加して

社会人 千葉まゆみ

今回参加したのは久々に都合がついたのと、何より以前参加して楽しかったなあという簡単な参加理由でした。

当日は司会者が時間で進行していくのを始め、グループ内での交流会（自己紹介・他己紹介・アイスブレイク）、時間が半分くらい経ってからグループ替えをしてのグループ内交流会（自己紹介・他己紹介・アイスブレイク）そしてグループごとにテーマ（固いものではなく…）を決めてのグループトークと発表会をするという流れで、各グループには必ず外国の方に入ってもらって頂くグループ分けです。



それぞれのグループ内での交流会は飲んだり食べたりしながら、くつろいだ楽しい雰囲気で行われ時間が足りないくらいでした。特に各グループでテーマを決めたトークで、私の入ったグループでは「それぞれの国の挨拶」では、日本では当たり前と思っていた挨拶ですが、驚いたことは国により意味合いが違っていったことでした。それはその国々の歴史や成り立ちや地理的・地政学などによってそのようになったのでは…！？とグループ内の大まかな結論に達しましたが、個人的にもそうなんだろうなと思いました。これは私にとっては新鮮な驚きと同時に、勉強にもなりました。

これも色々な国々・年代・職業等々の人達がたくさん集まるこの交流会ならではのトークだと思いました。

久しぶりに「ビビンの会」へ参加でしたが、凄く新鮮で時間が経つのが早く感じ、とても楽しい会でした。「ビビンの会」の交流会はぜひ今後も続けていって欲しいと思いました。



### グループトークの結果発表



充実したひと時を終わって

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

2016年6月11・12日 ニュースレター57号 印刷・発送作業

池秀明・石黒翼・稲垣瑞恵・大澤龍・斉藤乃章・ちえよんじん・千葉まゆみ・中島航平・西川裕貴・星野廣平・丸山芳彦・水谷充徳（12名）

2016年6月17日 ビビンの会運営スタッフ

稲垣瑞恵・井濱沙織・大澤龍・久保田裕美・小森新・霧山祐司・丸山芳彦（7名）

2016年5月13日～2016年8月10日に会費・ご寄付を下さった方（敬称略・五十音順）

|       |        |       |        |          |       |
|-------|--------|-------|--------|----------|-------|
| 荒川 雄彦 | 小川 英   | 北野 礼子 | 高橋 周孝  | 中川 敦司    | 山沢 勲  |
| 井内 和夫 | 小原 勝子  | 柴田 義之 | 田沢 雄二郎 | 波多野 淑子   | 吉崎 玲子 |
| 大澤 龍  | 唐澤 一登  | 芝村 篤樹 | 田村 洋平  | 細川 武(敦子) | 吉村 悦子 |
| 大塚 紀子 | 川崎 由紀子 | 下村 紀雄 | 塚本 美和子 | 堀内 和子    |       |

エラー！リンクが正しくありません。

ご入会・ご寄付のお願い

・活動会員：活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

・賛助会員：定期的にご支援頂ける方。

・ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

郵便振替口座

支店名 〇一九(ゼロイチキュウ)店

口座番号 当座 00180-2-25153

口座名義 日韓アジア基金

(カタカナ表記 ニツカンアジアキン)

<お問合せ先>（日本語でお願いします）

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館（ABK）内

T e l : 090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX : 03-3946-7599 (ABK)

E-メール : jkaf@iloveasia2.sakura.ne.jp

HP: <http://www.iloveasiafund.com>

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也